

視 察 報 告 書

報告者氏名： 青木 秀介

委員会名： 環境教育常任委員会

期 間：令和 5年 10月 18日(水)～ 10月 20日(金)

視察都市等及び視察項目：

厚木市 ・教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンターについて

新見市 ・インクルーシブ教育について

福岡市 ・夜間ごみ収集について

所感等：(厚木市)

横須賀市に限らず、今、全国の教育現場でのIT整備が進み、各教室へのパソコンの導入、職員室でのサーバー設置等に伴い、各学校がファイルサーバに管理しているデータファイルや個人情報膨大かつ急速に増えています。そのため保管しているデータに対する災害時の保護や情報漏えい対策が必要です。現時点では、自前のサーバーを設置するか、他者のデータセンターを借りるかの2択となります。厚木市では平成30年の文科省からの提言を受けて企画提案競技(コンペティション)により事業者を選択してデータセンターに移行されました。費用についてはおおよそ1億5千万円だそうです。横須賀市においては、独自のサーバーを利用して既に20年を経過しており、災害時において他者のデータセンターより、少し安全性の点からは劣るかもしれませんが、現在、特に支障はないそうです。今後、クラウドサービスに移行が検討されていますので、近い将来、独自のサーバーも不要になるかと思えます。



(新見市)

「インクルーシブ教育」、または「インクルージョン」は、日本語に訳せば「包み込むような」という意味になります。元々、「ソーシャルインクルージョン」(社会的包摂)という言葉から来ています。「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないように援護し、社会の構成員として包み、支えあう」というインクルーシブ社会の実現に向け、2015年に国連で採択された国際基準である「持続可能な開発目標(SDGs)」が発表されました。これから目指すべき社会の在り方を示しており、これを受けた文科省の指針をもとに、各県教育委員会がその指針に沿って各市町村へとインクルーシブ教育の推進に努力をされています。

その中で新見市のインクルーシブ教育の特色は、各生徒の障害の度合いにより症状の重いほうから順番に、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導・特別支援教室・通常学級の5段階となりますが、特に5段階の真ん中の通級による指導に力を入れているそうです。横須賀市でも昨年更新された「横須賀市支援教育推進プラン」では通級相談・通級指導の内容が拡充されていますが、新見市においては、すでに実践をされて成果が見られているそうです。その背景として、新見市自体の人口

が約 27,000 人であり、狭隘な地形に居住しているということで市民全体が家族的な親近感のある地域性を持っており、たとえ子どもたちに障害があったとしても、生まれたころより地域の方々に見守られて育っている環境があるそうです。そして過去 10 年間の通級による指導を受けている生徒が、小学校において 2.3 倍、中学校において 4.5 倍と増加しているという効果が出ているそうです。横須賀市においても例外ではなく、通級による指導が明浜小・諏訪小・ろう学校で始める準備をしているところですが、人材の確保に苦勞しているそうです。障害を持っていても、持っていなくても変わることはない人生を送ることができる世の中が実現できることを願います。



(福岡市)

以前より横須賀市内において生ごみの集積場所における鳥獣被害が数多く報告されています。荒らされた後の集積場所は美観的にも衛生的にも決して良いことではありません。集積かごに様々な工夫を試みたりもしましたが、なかなか改善されません。特に、日頃より散乱したごみの回収や、集積場所の清掃など地域の方々の苦勞は並大抵ではありません。何とか良い

方法はないものかと他都市の事例を調べたところ、福岡市において60年前より家庭ごみの夜間収集を行っており、市民の評価も良いと聞き、視察先として提案しました。

福岡市のごみ収集は1889年の市制施行前から、民間の手で定期的に行われていました。明治以前から昭和初期にかけて都市部で発生する生ごみや汚物は、農作物の肥料や家畜の飼料として利用されていたという経緯があります。これらの収集は、農家自身や他に職を持つ兼業者が手掛けていたため、農作業に取り掛かる前の早朝に作業をしていたそうです。このような早朝収集が、現在の夜間収集の基礎となったそうです。福岡市は1891年に掃除定則を制定して、民間事業者へのごみ収集の請負制度を正式に始めました。全国的には1900年の汚物掃除法の制定でごみの収集・処分は市町村の義務となり、その後制定された清掃法や廃棄物処理法に引き継がれています。このため横須賀市と同様に、他都市でも直営で収集していたところが多く、そのような自治体の中でも、現在民間へ委託する自治体が増えている状況です。1957年頃には、福岡市が、家庭ごみ収集を週2回とし、収集手段を荷馬車から三輪車やトラックに代えて、夜間のごみ収集を可能としました。

福岡市がごみの夜間収集を本格化させた1950年代半ば以降、自動車やバス・トラックが行き交う本格的なモータリゼーション(自動車化)時代を迎えました。日中の交通渋滞が深刻化していく中、交通量の少ない深夜に行う夜間収集は、極めて効率的な収集作業です。現在、民間業者16社・192台の清掃車が福岡市全域でごみの夜間収集作業に従事しているそうです。夜間の収集なので騒音等で眠れないという苦情や、暗闇での作業なので効率が良くないなどの問題もありますが、夜間の防犯や動物による被害など当初、想定してなかった利点も生まれたそうです。ただ、福岡市の夜間戸別収集に至った歴史や地形的な有利性、また、ごみ袋の有料制導入など早々に横須賀市に取り入れるとなると非常に困難なところがあるのも事実です。横須賀市の繁華街周辺を特定して、可能なところで導入の検討も必要と考えます。

